みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 3No. 2; Cover, Contents,and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009261

1978·6 3巻2号

国立民族学博物館研究報告

●

新粟のチマキと豊猟の占い——ルカイ族・パイワン族のアワ祭り抄————佐々木高明

ハルマヘラ島，Galela 族の食生活————石毛直道

ハルマヘラ島，Galela 族の食生活調査データの
コンピュータ処理について——食生活分析システム "MEAL"————山本順人

物質文化研究の方法をめぐって————祖父江孝男・大給近達・中村俊亀智・大塚和義

国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06－876－2151

国立民族学博物館研究報告

3巻2号　　1978年6月

目　次

新粟のチマキと豊猟の占い
——ルカイ族・パイワン族のアワ祭り抄——……佐々木　高　明……119

ハルマヘラ島，Galela 族の食生活……石　毛　直　道……159

ハルマヘラ島，Galela 族の食生活調査データのコンピュータ処理について
——食生活分析システム "MEAL"——……山　本　順　人……271

物質文化研究の方法をめぐって……祖父江　孝　男……280
大　給　近　達
中　村　俊亀智
大　塚　和　義

彙　　報……337

国立民族学博物館研究報告寄稿要項……341

国立民族学博物館研究報告執筆要領……342

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 3 No. 2 **June 1978**

SASAKI, Komei — Earthoven Cooking and Hunting Rituals in the Millet-Harvest Festival of the Rukai, Formosa 119

ISHIGE, Naomichi — Food Habits of the Galelan, Halmahera 159

YAMAMOTO, Nobuhito — Foodstuff Analysis System: MEAL 271

SOFUE, Takao
OGYU, Chikasato
NAKAMURA, Takao
OHTSUKA, Kazuyoshi — On the Method of Studying Material Culture 280

彙　報 (昭和53年1月～昭和53年3月)

人事異動

昭和53年

2月1日　辻村正行（大阪大学理学部）は管理部会計課に転任

3月1日　吉本　忍を助手（第2研究部）に採用

福川圭子を助手（第5研究部）に採用

3月31日　堀田　穣(情報管理施設資料室)は辞職

シンポジウム

「東南アジアの宗教と芸術」開催

日時　昭和53年1月10日（火）—13日（金）

場所　国立民族学博物館

摘要　文部省科学研究費補助金(総合研究A)による共同研究「アジアにおける文化価値体系の構造とその変容」（研究代表者梅棹忠夫）の一環として，標記のシンポジウムが催された。

このシンポジウムは，当該テーマに関連する諸分野の研究者が同一のテーブルについて，従来の研究成果を総括し，研究上の焦点と盲点を明らかにし，今後の研究体制の整備をはかろうとするものであった。この種のシンポジウムは前例がなかったこともあり，館内外から多数の参加者をえて，3日間に8つの分科会と総合討論が行なわれた。

共同研究参加者

研究代表者

梅棹　忠夫　国立民族学博物館長　総括

研究分担者

石井　米雄　京都大学東南アジア研究センター教授　総括

伊藤　幹治　国立民族学博物館第3研究部教授　総括

岩田　慶治　東京工業大学教授　総括

上原　　和　成城大学文芸学部教授　総括

菊竹　淳一　奈良国立博物館学芸課普及室長　総括

木村　重信　大阪大学文学部教授　総括

辻　　成史　大阪大学文学部助教授　総括

樋口　隆康　京都大学文学部教授　総括

藤井　知昭　国立民族学博物館第2研究部助教授　総括

松原　正毅　国立民族学博物館第2研究部助教授　総括

宮本　　勝　国立民族学博物館第5研究部助手　総括

山口　　修　大阪大学文学部助教授　総括

飯島　　茂　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授　民俗宗教

大林　太良　東京大学教養学部教授　民俗宗教

佐々木高明　国立民族学博物館第2研究部教授　民俗宗教

杉山　晃一　東北大学文学部附属日本文化研究施設助教授　民俗宗教

関本　照夫　国立民族学博物館第5研究部助手　民俗宗教

祖父江孝男　国立民族学博物館第1研究部教授　民俗宗教

竹村　卓二　国立民族学博物館第1研究部教授　民俗宗教

中根　千枝　東京大学東洋文化研究所教授　民俗宗教

吉田　禎吾　東京大学教養学部教授　民俗宗教

青木　　保　大阪大学人間科学部助教授　仏教

井ノ口泰淳　龍谷大学文学部教授　仏教

田邊　繁治　国立民族学博物館第2研究部助手　仏教

長尾　雅人　京都大学名誉教授　仏教

窪　　徳忠　立教大学文学部教授　道教

荒　松雄　東京大学東洋文化研究所教授　ヒンドゥー教
中村広治郎　東京大学東洋文化研究所助教授　イスラム教
高田　修　成城大学文芸学部教授　仏教美術
秋山　光和　東京大学文学部教授　仏教美術
田村　隆照　京都市立芸術大学美術学部教授　仏教美術
肥塚　隆　大阪大学文学部講師　ヒンドゥー教美術
杉山　二郎　東京国立博物館学芸部東洋課東洋考古室長　ヒンドゥー教美術
林　良一　筑波大学教授　西アジア美術工芸
深井　晋司　東洋大学東洋文化研究所教授　西アジア美術工芸
佐藤　雅彦　京都市立芸術大学美術学部教授　アジア工芸
吉田　宏志　大和文華館学芸員　アジア工芸
吉本　忍　大手前女子大学講師　アジア工芸
元井　能　京都市立芸術大学美術学部教授　アジア工芸
千原大五郎　拓殖大学教授　アジア建築
西川　幸治　京都大学工学部教授　アジア建築
小泉　文夫　東京芸術大学音学部教授　民族音楽・芸能
櫻井　哲男　国立民族学博物館第5研究部助手　民族音楽・芸能
森永　道夫　帝塚山大学教養学部教授　民族音楽・芸能
守屋　毅　国立民族学博物館第1研究部助教授　民族音楽・芸能
秋山　進午　大阪市立美術館学芸課長　考古学
桑山　正進　京都市立芸術大学美術学部講師　考古学
山田　信夫　大阪大学文学部教授　歴史
谷　泰　京都大学人文科学研究所助教授　ヨーロッパ文化
谷村　晃　大阪大学文学部教授　ヨーロッパ文化
山崎　正和　大阪大学文学部教授　ヨーロッパ文化

日　程

1月10日（火）
15:00—17:00　国立民族学博物館見学

1月11日（水）
10:00—10:30　基調報告　梅棹忠夫

第Ⅰ部	第1分科会（宗教）司会　伊藤幹治	第2分科会（芸術）司会　木村重信
10:30—12:00	▷報告と討論その1 報告「東南アジアの宗教」岩田慶治 助言　飯島　茂	▷報告と討論その2 報告「インドネシアの染織とその研究動向」吉本　忍 助言　元井　能
13:00—14:30	▷報告と討論その3 報告「東南アジアにおける宗教研究の展望—とくに南方上座部仏教を中心として」石井米雄 助言　井ノ口泰淳	▷報告と討論その4 報告「ジャワにおける宗教美術」田村隆照 助言　菊竹淳一
14:50—16:20	第Ⅰ部の総括　　司会　樋口隆康	

1月12日（木）

第Ⅱ部	第3分科会(大陸部)司会　佐々木高明	第4分科会(島嶼部)司会　吉田禎吾
10:30—12:45	▷報告と討論その5 報告「仏教の人類学的研究について」青木　保 助言　肥塚　隆	▷報告と討論その6 報告「東南アジア島嶼部における芸能の概観と研究の展望」森永道夫 助言　守屋　毅
13:45—16:20	▷報告と討論その7 報告「東南アジア—民族音楽研究の現状と課題—大陸部を中心に」藤井知昭 助言　谷村　晃	▷報告と討論その8 報告「東南アジア島嶼部の宗教」関本照夫 助言　竹村卓二

1月13日（金）

10:30—12:00　総合討論（含：第Ⅱ部の総括）　司会　祖父江孝男

館内合同研究会

昭和53年

1月17日　「民族の起源と先史学研究—アラスカにおける研究から—」小谷　凱宣

2月14日　「説話分析の一要素について」小川　了

『国立民族学博物館研究報告』合評会—2巻3号を中心に—

海外における研究・調査・収集活動

氏　名	出　発	帰　国	行　先
煎本　孝（第1研究部助手）	53. 1. 3	53.12.31	カナダ
吉田　集而（第2研究部助手）	53. 1. 9	53. 2. 8	タイ，ビルマ，インド，ネパール
栗田　靖之（第2研究部助教授）	53. 1.14	53. 2.28	連合王国，フランス，ドイツ連邦共和国
石森　秀三（第4研究部助手）	53. 1.30	53. 2.20	ニュージーランド，アメリカ合衆国，マーシャル諸島
宮本　勝（第5研究部助手）	53. 2. 1	53. 3.21	フィリピン
藤井　知昭（第2研究部助教授）	53. 2. 1	53. 3.14	イラン，インド，アフガニスタン，ネパール

来館者抄

昭和53年

1月7日　赤谷　鑑（国際連合広報局担当事務総長補）

1月10日　岡本　太郎（現代芸術研究所長）

1月11日　宮地　茂（福山大学長）

1月12日　斉藤　広志（ブラジル・サンパウロ大学教授）

森谷　剋久（京都市史編纂所所員）

1月13日　Kwang Koh (Professor of Political Science, Central Connecticut State College, U.S.A.)

1月26日　川村　俊蔵（京都大学教授）

鈴木　博之（京都大学講師）

1月28日　西野照太郎（国立国会図書館専門調査員）
2月3日　今井　滋（九州芸術工科大学助教授）
2月4日　宮島龍興（筑波大学長）
2月6日　J. M. Hester（国際連合大学学長）
A. A. Kwapong（国際連合大学副学長）
Walther Manshart（国際連合大学天然資源担当副学長）
宮脇　昭（横浜国立大学教授）
鈴木　邦雄（横浜国立大学）
2月22日　服部　正明（京都大学教授）
2月28日　崔　相　巢（韓国科学財団副理事長，西江大学校副総長）
朴　松　培（韓国科学院学生部長）
李　世　永（韓国原子力研究所分子生物学研究室長）
朴　鳳　烈（ソウル大学校教授）
田　溶　元（ソウル大学校工科大学学長補）
金　暻　善（韓国科学財団管理課長）
3月6日　森　浩一（同志社大学教授）
3月7日　藤枝　晃（京都大学名誉教授）
3月17日　小堀　巖（東京大学助教授）
J. T. Wilson（Ontario Science Center 館長）
3月20日　Choompol Swasdiyakorn (Deputy Secretary General, National Research Council of Thailand)
スラジ（インドネシア地理院文献資料部長）
3月21日　林　大（国立国語研究所長）
3月22日　Howard A. Sulkin（De Paul 大学副学長）
3月23日　ランスリ（タイ・教育事務次官）
3月25日　マニエル・ルイス（コレヒオ・デ・メヒコ大学院東洋部長）
芦原　義信（東京大学教授）
3月27日　F. N. Agblemagnon (Ambassador to UNESCO, Vice President of the Union of International Societies of Anthropology and Ethnology)
3月31日　口羽　益生（龍谷大学教授）

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを１段組，その他のものを２段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し１部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万国博記念公園
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図1」，「表1」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   [柳田 1942: 67–69]

   [Leach 1961: 123]

   [柳田 1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach 1961: 123]

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   [柳田 1942a: 20–22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

   (1) 文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

   (2) 文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

   （例）

   論文の場合 (1)

   石田英一郎

   1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311–330。

   Bohannan, P.

   1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357–372.

   論文の場合 (2)

   杉浦 健一

   1942 「民間信仰の話」 柳田国男編『日本民俗学研究』 岩波書店，pp. 117–143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　靖一

1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀　一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　3巻2号

審査委員
梅　棹　忠　夫　　祖父江孝男
中　根　千　枝
編集委員
伊　藤　幹　治　　加　藤　九　祚（編集委員長）
黒　田　悦　子　　竹　村　卓　二
田　邊　繁　治　　垂　水　　稔
編集事務協力
石　元　宏　廸

昭和53年9月7日　印刷
昭和53年9月14日　発行
非売品

国立民族学博物館研究報告　3巻2号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市山田小川41－1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol. 3 no. 2
June 1978

SASAKI, Komei — Earthoven Cooking and Hunting Rituals in the Millet-Harvest Festival of the Rukai, Formosa

ISHIGE, Naomichi — Food Habits of the Galelan, Halmahera

YAMAMOTO, Nobuhito — Foodstuff Analysis System: MEAL

SOFUE, Takao — On the Method of Studying Material Culture

OGYU, Chikasato

NAKAMURA, Takao

OHTSUKA, Kazuyoshi

ISSN 0385-180X

National Museum of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151